

市制10周年記念式典を開催

10月11日、佐野市制10周年記念式典が文化会館で開催され、市関係者や来賓など約1,200人が出席し、節目の年を祝いました。

式典では、栃木県選出の国会議員や、県議、県内や両毛地域の市町の首長、議会議長などの皆さんにお越しいただき、親善都市である滋賀県彦根市の久保貴市長や彦根市のキャラクター「ひこにゃん」も駆けつけてくださいました。

岡部市長は式辞の中で、合併後の10年を振り返り「この10年で佐野市の礎を築けたと確信しています。今後さらなる発展・飛躍を遂げられるよう、北関東の新中核都市を目指し取り組んでいきます」などと話しました。

式典の中では、昨年創設された田中正造記念賞の表彰状授与が行われ、佐野市制10周年記念特別賞が「NPO地域づくり工房(長野県大町市)」に、佐野市長賞が「峠の照花園(佐野市)」に、奨励賞が「猪苗代湖の自然を守る会(福島県猪苗代町)」と「わたらせ未来基金(古河市)」に贈られました。

また、「さのまる」の指揮による市歌斉唱が行われ、万歳三唱をもって式が締めくくられました。



田中正造記念賞の受賞者の方々

佐野市訪英団を派遣

野城副市長を団長とした佐野市訪英団が、9月24日～29日の期間、英国ロンドンを訪れました。



訪英団は英国クリケットの聖地「ローズクリケットグラウンド」などを訪問し、クリケット関係者との友好を深めたほか、日本スポーツ振興センターロンドン事務所を訪問して、オリンピックなどのキャンプ地誘致への協力を要請しました。

野城副市長は「行く先々で歓迎していただき、英国日本人会の方々など、現地の関係者には大変お世話になりました。各所で佐野市のPRができたいへん有意義な訪問でした」と振り返りました。

11月には岡部市長を団長とした訪米団が、姉妹都市ランカスター市などを訪れます。

新庁舎建設工事の進捗状況「鉄骨建方が進んでいます」



10月10日、新庁舎南側から撮影

9月から鉄骨工事が始まり、敷地の北側から順次、鉄骨建方が進んでいます。年末には、庁舎の全体像がわかるようになる見通しです。

■問合せ＝新庁舎建設課 ☎(20)3058



「よっこそ佐野市へ 「まちなかの駅」おもてなし テント」

観光客や地域の皆さんに、休憩と交流の場を提供し、活動している「まちなかの駅ネットワークさの」は、10月5日、ねんりんピックの会場に「おもてなしテント」を建てました。冷たい雨の降るこの日、温かい昆布茶や、甘酒のようなお神酒飴、甘い梅干しを選手の皆さんに振る舞いました。

全国から集まった方々は「おいしい」と笑顔で答えられ、試合の合間に、まちなかの駅の皆さんと故郷や佐野市のお話を楽しみました。こうした「おもてなし」は、ねんりんピックの嬉しい思い出の一つとなって、故郷へ帰られた選手の心に残ることでしょう。(市民記者 吉井貴子)

佐野市総合防災訓練



10月19日、佐野市総合防災訓練が田沼グリーンスポーツセンターで開催され、警察や両毛地域の各消防本部、各町会の自主防災組織や企業など48団体、600人の訓練参加者で実施され、約1,500人の方が訓練を見守りました。

訓練は地震による大規模災害が発生したことを想定し実施され、災害対策本部の設置や情報収集訓練、避難所の設置や、ガス・水道・電気・通信などの復旧訓練、消火・救出訓練などが行われました。

災害はいつ起こるかわかりません。皆さんも、事前に3日分の食料・飲料水を備蓄しておくなど、災害への備えをよろしくをお願いします。

ねんりんピック栃木2014



10月5日、田沼グリーンスポーツセンターで「ねんりんピック栃木2014ゲートボール交流大会」が開催されました。

ねんりんピック栃木2014では、県内各市町において「スポーツ交流大会」「ふれあいスポーツ交流大会」「文化交流大会」など、全24種目が行われました。佐野市では、ゲートボール交流大会を開催され、全国から約1,800人も選手・役員が集まりました。

台風の影響で、2日間開催予定のところ、初日のみの開催となってしまいましたが、朝から冷たい雨が降り続く中、参加者たちは雨にも負けない熱いプレーを見せてくれました。また、運営スタッフも「いもフライ」や温かい飲み物などを配ったりと、精いっぱいのおもてなしで選手をバックアップしました。

仁川アジア大会の結果報告会

10月9日、韓国で行われた仁川アジア大会に出場した本市在住の選手たちからの結果報告会が、市長公室で行われました。

アジア大会に出場したのは「レスリング・グレコローマン98キロ級」に斎川哲克さん(堀米町)、「女子クリケット」に宮地静香さん(天神町)、坂本千尋さん(奈良瀬町)の3選手。

斎川選手は初戦で敗れるも、敗者復活戦から勝ち上がり、銅メダルを獲得。「内容・結果ともに全く満足できないが、メダルを持って帰れたことは良かった」と報告しました。

女子クリケットはメダルを目指していたものの、準々決勝で中国に敗退。宮地・坂本両選手は「とにかく悔しかった。足りないものが自覚出来た大会だったので、次の大会で活かしたい」と話していました。

